

第1小委員会 執行部答弁

組合員の側にいる
労働組合の運動実践

白壁副執行委員長

◆36人から発言いただいた。小委員会制度は、JR連合の加盟単組の中で、西労組だけが今もやっている。多くの代議

員から意見を聞くというのが西労組である。昔から先輩達がずっとこだわりを持ってやっていた。私たちがやっていると改めて感じた。

◆情報共有、悩みの共有、執行部への叱咤激励等、たくさん意見を出した。私たちの組織の運動は、多岐に亘っていると改めて感じた。

◆労働組合の役員は実践型のリーダーである。どんなに理屈が通じても、現場に響かない人は、リーダーとしての価値がない。逆

に言うと、どんなに口が立たなくても、人の話を聞いてくれる、実践している、動いているリーダーが、優秀で立派なリーダーである。

◆デジタルの活用が言われている。しかし、正解のない議論については、デジタルではなくて心合せで議論しなくてはならない。正解のない議論をする場合と、情報伝達の場合と分けてやってきた。労働組合の「心合せをする」とい

う、本当に大切な機能は、引き続き西労組として、大切な運動としてやっていきたい。

◆組織というものは生き物であり、職場のあり方、組合員さんのあり方によって変わっていくものである。ただ、絶対に忘れてはいけないのは、私たちが労働組合というのは、組合員の側にはないといけないということ。職場に何かあったら相談できる組合役員がいる、面倒を見てくれる役員がいる。

そういう体制を作っていくのは、決して効率を求めようとするのではなく、誰も取りこぼされない、取り残されないのが、西労組の運動だと思っている。

第2小委員会 (安全・業務)

中央本部出席者

本田中央副執行委員長 福本企画部長 川原業務部長 池上賃金対策・調査部長 田中文化・レク・調査部長 筆野組織・業務部次長 堀組織・業務部次長 小松組織・

業務部次長 飯田鉄道営業部会長 大石鉄道運輸部会長 下釜鉄道工務部会長 藤原間接部門部会長 梅村医療部会長 小林 昆野 職員

犬飼委員 米子地本・金田委員 吉田委員 飯塚委員 広島地本・前田委員 齋藤委員 山崎委員 野坂委員 河畑委員 福岡地本・田中委員 西バス地本・下橋委員 中バス地本・米廣委員 本社総支部・佐藤委員 青木委員 森委員 山根委員 廣松委員 原田委員 瀧井委員

新幹線協議会・瀧井委員

新幹線協議会・瀧井委員

発言者氏名

金沢地本・端崎委員

石川委員

京都地本・岡本委員 北村委員 小川委員

向井委員 岡委員 高田委員

大阪地本・東出委員 牧野委員 清家委員

川口委員 野井委員 青谷委員

田畑委員 宮崎委員

和歌山地本・藤々木委員

神戸地本・石原委員 東委員 笠木委員

福知山地本・上井委員

岡山地本・今井委員

発言要旨

◆「2024年問題」によるバス産業の労働条件の悪化懸念。 ◆バス運転士の人財確保について。 ◆ヒューマンエラー非懲戒の取り

組みについて。 ◆「電気施設保護の業務体制の見直し」のグループ会社との情報共有。 ◆工務関係触車事故防止準則

の見直し。 ◆要員減に見合う業務の集約が出来るのか甚だ疑問。 ◆大単位化でその人の配置が重要。

◆管理駅内での助働ありきの体制についてフィルターを。 ◆リモートワーク推奨とパソコンのスペック、通信速度向上を要

求。 ◆社員運用を含めた今後の駅体制の展望について。 ◆みどりの窓口の混雑と多くの苦情・Mの限界。 ◆スマートイコカやJ-WES Tカードの普及を。

◆乗務員点呼システム試行の課題。 ◆中期経営計画の「みどりの券売機の機能増強」はいつのよう

う、本当に大切な機能は、引き続き西労組として、大切な運動としてやっていきたい。

◆組織というものは生き物であり、職場のあり方、組合員さんのあり方によって変わっていくものである。ただ、絶対に忘れてはいけないのは、私たちが労働組合というのは、組合員の側にはないといけないということ。職場に何かあったら相談できる組合役員がいる、面倒を見てくれる役員がいる。

の定義を明確に。 ◆検修業務での手当拡大について。 ◆フレックスタイム制の適用拡大について。 ◆在宅勤務手当や光熱費補助の導入を検討を。 ◆LGBT理解増進法について。 ◆NSの運用について。

◆乗務員採用社員の駅での滞留について。 ◆全車指定席特急列車の課題について。 ◆天和路線を停車場化に。 ◆車掌の準備時間折返し準備時間について。 ◆除草、自動改札機故障対応の外部委託について。 ◆WISENET端末操作時の動作時間、端末起動時間が遅い。 ◆東京指令所の運輸系の在籍年数を、最低でも5年までとするべき。 ◆短時間勤務者に対する半休使用。 ◆労働時間の短縮(7時間30分)について。 ◆獣害処理や沿線の除草や伐採等について、部外委託も含めた協議の検討。 ◆幹在の人事運用について。 ◆新型コロナウイルスの特例措置の恒久化。 ◆「社員管理の徹底」について、管理監督層側から組合員に寄り添い、フォローの体制を。 ◆工事関係の拡大について。 ◆教育出向体制の整備。 ◆ジャッパ西への採用強化。 ◆労働協約で更年期障害に関する成果の獲得を。 ◆山陽新幹線の運転士見習い養成期間の適正化。 ◆作業ダイヤフリーの考え方に

第1小委員会 発言者

